

シリーズ『みんなの力で命と暮らしを守る
～防災計画が目指すもの』①

豊岡市地域防災計画とは？

豊岡市は平成16年の台風23号で甚大な災害を経験しました。あの時の教訓を生かし、災害にひるまないまちづくりを進めるため、市が作成した地域防災計画が目指していることについて、今月号からシリーズでお知らせします。

《問合せ》防災課防災係



▲10月に全戸配布した「みんなの力で命と暮らしを守る(保存版)」

防災計画の目的と役割

防災計画は、市域で発生する災害について、市その他の防災関係機関、関係団体および住民が全力をあげて、風水害や地震等の災害から住民の生命・身体・財産を守ることが目的に作られ、そのためのそれぞれの役割・責任・業務を示しています。

皆さんの防災・減災意識の高揚と自発的な防災・減災活動の参考にしてください。

防災計画の内容

「みんなの力で命と暮らしを守る」

台風23号をはじめとする過去の災害の教訓を踏まえ、「みんなの力で命と暮らしを守る」を理念としています。

「みんなの力」とは、行政にも、地域にも、個人にもそれぞれ限界があるので、災害への対応に当たっては、それぞれの力を結集するという意味を込めています。また、「暮らし」とは、日々の生活であ

り、築いてきた財産です。

これを理念として、災害にひるまない豊岡市を創りあげるため、基本的指針として次の3つを掲げています。

①災害リアリズムに徹する

・災害は必ずやってくる。
・災害は明日にもやってくる。

・災害に対してはそれぞれに限界がある。

という現実を見つめ、事前の備えや災害時の行動等を具体的にイメージする。

②減災の視点に立つ

災害を防ぎ、被害をゼロにすることは困難であることから、「減災」を考え方の根幹とする。

③地域の力を蓄える

災害におけるさまざまな事態を想定し、日ごろから住民一人ひとり、自治組織等が積極的に力を蓄えるところにも、関係機関との連携を図っていく。



皆さんに求められる役割

「防災計画は、市や防災関係機関だけの計画ではありません。みんなの力を合わせるための、みんなの計画です」

災害では、公助・自助・共助が必要ですが、まずは「自分の命は自分で守る」という自助を考え方の根幹とするのが大切です。

次に共助です。最悪の事態を想定し、それぞれで役割を担って活動することが必要です。主な役割は次のとおりです。

●減災行動の追及、知識習得
(家具や食器棚等の転倒防止、住宅の耐震化等)

●非常持ち出し品の常備(3日分の水や非常食、生活用品の備蓄等)

●自主防災組織の強化および防災資機材の整備(区における防災・減災対策等)

●気象警報等の収集・伝達、避難所運営、災害時要援護者避難支援(区対策本部等における災害時の情報収集・伝達体制構築、役割分担の明確化等)

「災害時帰宅支援ステーション」ご存じですか？

災害時に交通が途絶した場合に、通勤・通学者などの徒歩帰宅者に対する「水道水」「トイレ」「道路情報」の提供が可能なコンビニエンスストアや外食事業者には、次のステッカーが掲出されています。災害時には「災害時帰宅支援ステーション」として支援を受けることができます。



▲災害時帰宅支援ステーション・ステッカー

■近畿一円で次の事業者と協定を締結しています(敬称略)

- ◇(株)イーエム・ピーエム・近鉄◇国分グロース・ピーエム・近鉄◇ココストア◇サークルKサンクス◇(株)セブン・イレブン◇ジャパン◇(株)チコマ◇(株)デイリーヤマザキ◇(株)ファミリーマート◇(株)ポプラ◇ミニストップ(株)◇(株)ローソン◇(株)吉野家ディー・アンド・シー